



6月6日(月)

2022年(令和4年)

発行所：東京都千代田区一ツ橋1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321
毎日新聞東京本社



東京都港区立
高松中学校

未来をソウゾウ

2050年。NTTが研究を行う技術は世界をどのように変えるのだろうか。

進歩しても、測定できず

地球のことを私たちはまだ何も知らない。現在の技術は皆とても進歩したとよくいうが本当にそうだろうか？ 確かに時が経つにつれて科学も技術も進歩してきた。地球的な課題である地球温暖化の原因は実はわかっていないと、NTTの前田氏は言った。しかも驚くべきことに温暖化の原因といわれる二酸化炭素の量を測れていないのだ。二酸化炭素の正確な測定など、進歩したとはいえ、まだ実現できていない技術もたくさんある。このように私たちの日常生活に影響を与える未来の技術についてNTTは研究を重ねているのだ。

(廣岡そら)

海洋センサー世界をサーチ

現在、海上の二酸化炭素の量などといったデータ採取は、海が広すぎて困難なうえに不正確とされている。それを可能にするべく、NTTが研究・開発を行っているのが海洋センサーだ。この研究の面白いところは、作る段階での材質選び、そして遠隔操作という点だ。データを送り終えたあと海にそのままの状態で使い捨てにするのではなく、環境にも配慮して海水に溶ける材質を使用する。そして遠隔操作により、データ採取時ではバラバラに散らばらせて採取するが、採取してデータを送信し終えたあとには一点に集めて回収させるといった画期的な方法も可能だ。

私はこのような研究を前田氏、岡崎氏から伺った時、驚いたと共に未来予測に大きな発展をもたらす重要な役割をしているものだと

いう希望を感じた。

(濱中賢悟)



未来のバース

NTTの目指している未来はこれだけではない。「疑似未来」を使った未来予測の研究も行っている。

この未来予測というのはメタバースといわれる仮想空間を使い、今考えられる可能性を伸ばし、未来から逆算的に考えることである。このバックキャストイン

グという考え方をすることによって、いままで主流であった現在の視点から未来を積み重ねて思考するフォアキャストイングでは考えられなかった予測ができるようになる。

近い将来に起こるであろうシンギュラリティを見据えるならば、計画の変更などがフォアキャストイングと比べて円滑にできると考えられるバックキャストイングの重要性は高い。

(中塚ノア)

次の世代の人類へ

そのような巨大で、未知の世界をゆく技術には、それにあつた慎重な活用方法が問われる。

このプロジェクトは言うまでも無く、国をまたいで多くの企業が参画している。そして、前述のような未来予測技術で得た利益は、先進国や発展途上国などは関係なく、すべての人に還元できるシステムだ。

一方、それが故に危険も大きく、この無限の力は、軍事をはじめとした悪事にいくらでも転用できる。だからこそ、ただテクノロジーに委ねるのではなく、諸問題を自分のこととして捉え、悪事を許さない社会を醸成していくことが必要である。

未来を見据え 一歩一歩

地球塾の冒頭で、京都芸術大学の竹村眞一教授は「より良い未来を『創造』するために『想像』力を使おう」と述べていた。

どんな技術が生まれても、持続可能な世界を実現するために、人類はひたむきに歩み続けることが求められるのかもしれない。

(青木稜眞)

